

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 ドリーム	代表者	理事長 金子 敏	法人・ 事業所 の特徴	平成 23 年 3 月に、旧越路町で初めての小規模多機能型居宅介護として、住み慣れた地域で在宅生活をしながら「小規模多機能型居宅介護」の特性である柔軟で臨機応変なサービスを利用できる。家庭的な雰囲気の中で、顔見知りの職員が自宅にも訪問し、使い慣れた環境の施設で通いやお泊りも実施している。 施設の環境として、農村住宅地にあり、事業所の畑もあるのでご利用者・職員とで野菜の収穫などに行きながら、周辺住民の方ともあいさつやお話し合える関係性を築いている。認知症のご利用者・ご家族から、在宅生活に不安を感じられる方も多く、併設の認知症対応型グループホームもあるので、随時相談にのっている。今までに老々世帯のご夫婦を小規模（1階）と、グループホーム（2階）とでご利用いただき、お互いの関係性が保てる支援を行なった。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 あおぞら館	管理者	松崎 あゆみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2 人	1 人	1 人	1 人	1 人	1 人	人	3 人	人	10 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	前回の改善計画をもとに、今後も管理者を中心に、計画に対する取り組みを定期的に話し合う場（ミーティング、定例会議など）を設けて、職員間で日頃より意識していく。	職員やご利用者に係る項目は会議やミーティングを活用して周知していた。自己評価は、7月までに各職員（パートを含む）が評価することができた。内部研修のテーマに自己評価のできていないことをあげて話し合った。	自己評価は意見をまとめる期間も必要なので、時間がかかる。	自己評価の時期は H30 年 7 月を予定。職員のスキルアップのため内部研修だけでなく、外部研修の計画を立てる。
B. 事業所のしつらえ・環境	今年度より始まったオレンジカフェの活動の様子なども玄関に掲示したり、看板等で来客者にもわかりやすく参加してもらいやすいように日時の予告等を行う。	オレンジカフェの活動の様子などが写真付きで掲示した。看板を玄関ポーチに掲示して日にちがわかるようにした。	行事に合わせて季節の飾りつけなど一緒に作成している。	オレンジカフェで行なった予防体操やクイズや行事の内容を利用者の余暇活動にも行って活用していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事などに参加し、施設だけでなく、職員も地域の方々と顔見知りの関係作りをしていきながら、オレンジカフェや施設行事にも参加を促す。	回覧板の班に当事業所も入れてもらっていることで、地域の行事も知る事ができた。	オレンジカフェの参加者の目的に認知症予防が多いので、脳トレなどを普段利用されている利用者さんにも活かしていく。	今後も各利用者さんのエコマップを継続して話し合っていく、地域で暮らしていくために、助けてもらっていることや、各者の役割を確認していく。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>前回の改善計画をもとに、あおぞら新聞や行事のお知らせなどを回覧板で地域住民の方にも施設でどのような事が行われているかを配信していく。今後もさらに民生委員との連携を密にする。</p>	<p>地域の運動会や祭り、クリーン作戦にも参加できた。 こしじ保育園の園児との交流会を計画し、施設へ訪問して一緒に歌や体操をすることができた。保育園も今後年間行事のなかに計画を予定してくれるとの話があった。</p>	<p>障害者施設の合同地域生活推進会議にも参加させて頂き、多くの越路地区の区長や民生委員と関わる事が出来た。 一人暮らしの利用者宅に白あり業者などが入っていて、ご家族や包括支援センター、区長、民生委員等で連絡を取り合った。</p>	<p>独居や認知症高齢者をねらった業者販売などを見つけた時の対応と報告の強化を行ない、職員を含めて今後の対策を話し合う。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>今後も地域の活動や、心配事などを話す機会にしながらも、地域における施設の役割なども話し合う場にしていく。</p>	<p>ご近所の方が家庭内の心配事や介護保険の依頼のため等施設に話をしに来て下さり、包括支援センターへつなげた。</p>	<p>独居の利用者さんが多く、構成員の選任方法をどのようにしていくべきか。</p>	<p>構成員の方々に心配事や今後の課題などについて話す場を会議の中で計画する。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>いろいろな想定訓練を行って、避難訓練として5,10月に開催し、地域の方にも案内を出して参加してもらいながら、マニュアルから、臨機応変な対応や事例などの話し合いも行う。 今後も回覧板より情報を収集し地域の防災訓練に職員も参加していく。</p>	<p>毎年避難訓練を行っているが、地域の方からの参加が決まってきた。 支援地域の不動沢・白山地区は大雨などでいち早く避難指示がでて、施設長（管理者不在のため）を中心に避難・各者へ報告等を行った。</p>	<p>AEDがNPO法人ドリームの施設には配置してあることは、地域住民として安心している。 発電機は、公民館に避難用具として置いてある。 日中地域の若手は仕事にでていため、施設の職員が頼り。 防災ラジオを設置してはどうか。</p>	<p>支所の方から防災ラジオの提案を頂き、H29年12月より設置したが、同一建物に常時利用者と職員がいるグループホームがあるので、設置場所は2F707にした。 今後も施設内で連携をとって災害対策・情報の共有に努める。</p>